

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	ウ	21
問二	1	
	続	
	け	
	られ	
	た	22
	2	
	真	
	面目	
	で	
	練	23
問三	i	
	ア	24
	ii	
	イ	25
	iii	
	オ	26
問四	③	
	エ	27
	⑤	
	イ	28

2

問一	人				
	目				
	に				
	つ				
	か	37			
問二	ウ	38			
	1				
	イ	39			
	2				
	ア	40			
	3				
	エ	41			
問六	ウ	33			
問七	ア	34			
問八	エ	35			
問九	ア	36			
	エ				
問五					
	も	い	で	吹	
	捨	っ	、	奏	
	て	し	バ	楽	
	き	よ	ス	を	
	れ	に	ケ	や	
	な	バ	部	っ	
	い	ス	に	て	
	か	ケ	復	み	
	ら	が	帰	た	
	。	し	し	い	
		た	て	と	
		い	み	思	
		気	ん	う	
		持	な	一	
		ち	と	方	29 30 31 32

		<b>5</b>		<b>4</b>		<b>3</b>							
⑥	①	①	①	①	問九	問六	問四	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
順延	効率	工	親切	過疎化	と	人身被害	を	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
⑦	②	②	②	②	高	問七	工	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
65	60	55	50	47	問十	44	45	42	43	44	42	43	43
⑧	③	③	③	③	ウ	問八	パ	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
66	61	56	51	48	問十一	45	46	43	43	44	42	43	43
⑨	④	④	④	④	工	ニ	ツ	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
67	62	57	52	49	49	46	46	43	43	44	42	43	43
⑩	⑤	⑤	⑤	⑤	原因	ク	ク	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
68	63	58	53	51	52	46	46	43	43	44	42	43	43
⑪	⑥	⑥	⑥	⑥	形見	ク	ク	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
69	64	59	54	51	53	46	46	43	43	44	42	43	43
⑫	⑦	⑦	⑦	⑦	長所	ク	ク	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
70	65	60	55	51	54	46	46	43	43	44	42	43	43
⑬	⑧	⑧	⑧	⑧	難	ク	ク	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
71	66	61	56	51	54	46	46	43	43	44	42	43	43
⑭	⑨	⑨	⑨	⑨	難	ク	ク	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
72	67	62	57	51	54	46	46	43	43	44	42	43	43

(配点)

①	〔問三〕	各2点、〔問四〕	各3点、	}	計150点
②	〔問三〕	各2点、他各5点			
③④⑤	各2点、	〔問五〕	7点、他各5点		

【解説】

1 如月かずさの『給食アンサンブル2』（光村図書）から出題しました。

バスケット部を辞めたことを後ろめたく感じつつ、同級生に誘われて吹奏楽部への入部を迷っている中学二年生の慎吾が、バスケット部の仲間たちと久しぶりに会話したことや給食での一幕を通じて吹奏楽部への入部を決意する場面です。

問一 B1 理由 比較

バスケット部のみんなが慎吾に気を遣っている理由を問う問題です。みんなが慎吾に対してどのような心情を抱き、気を遣っているかは、みんなの発言から読み取ることができます。慎吾の脚のことについて「謝らないとどずっと思ってたんだ」「すぐに病院に行くようにすすめてれば、部を辞めなくてすんだ」かもしれないの……という満の発言や、「慎吾、最近ずっとおれらのことを避けてたろ。だからやっぱそのことで怒ってんじゃないかと思つてよお」というバリーの発言から、みんなは慎吾が退部した責任が自分たちにあり、慎吾に対して申し訳なく思っていることがわかります。したがって、ウが正解となります。ア「もどつてきてくれるのではないかと期待している」、イ「お互いもつと近づきたいと願っている」、エ「まともに会話もせずに」がそれぞれ誤っています。

問二

1 B1 具体化 関係つけ

線②の五行後から慎吾が語っているのが「ほんとうのこと」の内容です。この発言を慎吾が「あえてそうしなかった」

こととは何かを意識しながら読み進めると、「続けようとしていれば、続けられたかもしれない」という表現が見つかります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 B1 具体化 関係つけ

みんながどのように反応したかを問われていますから、みんなの反応（発言・行動）を一つ一ついいねいにおさえましょう。i の次の行で満が「慎吾はそういうことはいらないだろう」、続いて雅人も「おまえみたいに真面目で練習熱心なやつが、まだ頑張れるのに怪我のせいにしてあきらめたりするわけないだろ」と言つて、バリーともっさんもしきりにうなずいています。雅人の発言から、みんなが慎吾を「真面目で練習熱心なやつ」と考えていることがわかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三 B1 関係つけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 「沈黙に耐えている」慎吾は、「みんなの反応が怖くてうつむい」ています。自分が部活を辞めたことをみんなから「逃げた」と思われているのではないかと感じていることから、アの「びくびく」が入ります。

ii みんなと話しているうち、雅人の提案からお腹が減っているという話になり、もっさんが干からびた給食のコップパンをどこからか持ってきて、それをめぐつてちよつとした騒ぎになっています。「騒ぎ」に対応する言葉としてイの

「どたばた」が入ります。

iii 雅人が提案した「給食のカレーに入ってる肉の数が奇数か偶数か」「ABCスープのうずらの卵の数」「フルーツポンチの寒天の数」は、どれも真剣に言っているとは思えないような提案ばかりです。問六とも関係してきますが、雅人は本気でその決め方にすれば、と言っているのではなく、バリーが決断を急がせようとするのを見て、話をいったん無関係な別の方向に持つていくことで、慎吾がすぐに決めるなくても済むようにした可能性があります。これらのことを考え、オ「ぐだぐだ」が入ります。

問四

A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。辞書的な意味をきちんとおさえたいうえで、今回の文ではどのように使われているのかを考えましょう。

③ 「茶化す」はまじめな話を冗談のようにあつかってごまかすことを表す言葉です。「まじめに話しているのに茶化さなideきちんと聞いてほしい」というように使います。

⑤ 「しびれをきら(す)」は待たされて我慢できなくなる様子を表す言葉です。「三十分以上待ったのに相手が来なかった」ので、しびれをきらして帰ってしまった」というように使います。

問五

B2 理由 推論

慎吾が入部の返事をできないでいる理由を答える問題です。

「返事をしない(できない)」という行動の理由ですから、その時の慎吾の心情からとらえましょう。——線④の十五行後に「雅人や満にそういつてもらっても、ぼくが入部を決められなかったのは」とあり、ここからその理由が語られています。吹奏楽をやってみたいという気持ちがある一方で、慎吾はもつとみんなといっしょにバスケットがしたいという気持ちも同時にかかえているのです。これらの内容を盛り込んでまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問六

B1 具体化 比較

設問には「慎吾は後でどのように想像していますか」とあります。したがって、これより後の場面から、慎吾が「あの時の雅人はこういう思いだったのだろうか」というように雅人の意図を想像している部分を探していきます。

ii の二行後に「いまになって思うと、あのとき雅人は」と慎吾が雅人の意図を想像している部分が見つかります。バリーがどんな話を進めてしまうので、慎吾のことを思ってわざと突飛な提案をし、話をうやむやにして時間を作ったあげようとしたのかもしれない、という慎吾の想像と照らし合わせ、ウが正解となります。ア「バリーの提案した方法がつまらなかった」、イ「とっておきのギャグ」、エ「空腹をまぎらわす」とした」がそれぞれ誤っています。

問七 **B1** 具体化 比較

慎吾の数えたアーモンドは偶数だったので、「入部しない」ことが確定します。どうなるかと思つて緊張していた慎吾でしたが、ここでいったん結果が出たことで緊張がふつとどぎれています。直後に「なんとなくもやもやするけど、そういうふうに決まったんだからしかたがない」と結果を大歓迎しているわけではないながらも受け入れようとする慎吾の様子が読み取れます。以上のことから、アが正解となります。イ「ここからどんな手を使えば逆転可能か考えようとしている」、ウ「すぐにでも次の目標を決めなければ」、エ「いったん落ちついてからもう一度数え直そうとしている」がそれぞれ誤っています。

問八 **B2** 関係づけ 比較

⑧の次の部分で、「そのことに気がついた瞬間、ぼくはほつとため息をついていた。それといっしょに、うれしさがわきあがってくる」という慎吾の様子が示されています。また、さらに次の行の「ほんとうはどうしたいのか、とつづくに決まっていた」に注目すると、慎吾が北野くんの飛ばしたアーモンドを加えて「奇数」にしていること、すなわち吹奏楽部への入部を決めたことがわかります。このことは、この直後に慎吾が小宮山さんに「やつぱり吹奏楽部に入部することにしようと思つて」と伝えてのことからもわかります。以上のことから、エが正解となります。ア「数なんて、本当はどうだつていい（直後にアーモンドをトレイに並べていることから、偶数を奇数に変えること、すなわち数そのものが大きな意味を持つていると考えられます）」、イ「北野くんは」、ウ「これ

を食べてしまえば」がそれぞれ誤っています。

問九 **B2** 具体化 比較

慎吾に話しかけられた小宮山さんの様子をおさえましょう。「呆気にとられた顔」をした後、「顔を輝かせて」「うんつ、もちろん！」とうなずいています。勧誘はしたもののなかなか返事をしてくれなかったこともあつて、小宮山さんはこのタイミングで慎吾から入部することを言われるとは思っていなかったと思われれます。うれしいことではあるけれどあまりに突然でびっくりした、という気持ちがアと重なります。また、「顔を輝かせて」「うんつ、もちろん！」というところからは、慎吾が吹奏楽部への入部を決意してくれたことがうれしい、という気持ちも読み取れます。これは、エの内容と重なります。したがって、ア・エの二つが正解となります。イ「期待はすでになかった」、ウ「警戒する気持ち」、オ「しつこく返事を求めなかったからだ」ということに思い当たり」がそれぞれ誤っています。

2 高槻成紀『都市のくらしと野生動物の未来』（岩波書店）から出題しました。

東京にシカが出没したことや、里山でツキノワグマが出没したことがニュースになるといふ話を取り上げ、人と野生動物の間のむずかしい問題がどのようにして発生しているのかということについて述べている文章です。

問一 **B1** 具体化 関係づけ

荒川の河川敷に若いオスジカが現れた件を取り上げ、その

いきさつについて筆者が想像している部分について問われています。——線①からしばらくは、この件に関する人間の対応について筆者が意見を述べており、シカが出没したいきさつに関する考察は出てきません。「筆者が」「いきさつを」「想像している」ということを念頭に置いて、これとは直接無関係と思われる内容を飛ばしながら読み進めると、かなり先になります。④の十三行後に「以下は私の想像ですが」という表現が見つかり、ここから筆者の想像した内容が語られていることがわかります。この部分で、シカが利用した川の性質は「エ」の次の行から始まる段落で「人目につかず、途切れることがない」と説明されています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 B1 具体化 比較

野生動物の対応を警察が行うことについて、筆者は「奇妙」だと表現しています。少なくとも、肯定的にとらえているわけではないことはわかるでしょう。それをふまえて読み進めると、——線②の六行後に「ただそれは警察の出勤によって抑制する被害ではありません」という表現が見つかります。シカによる農林業への被害はもちろんあると認めたくえで、でもそれは警察が直接対応すべき被害ではない、と指摘しているのです。以上のことからウが正解となります。ア「人に害を与える可能性がない」、イ「公的な組織が整えられている」、エ「自分たちの手で解決することをあきらめ」がそれぞれ誤っています。

問三 B1 関係づけ 比較

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。前後の内容をおさえたいくえでそれぞれの関係に着目し、接続詞を入れてどうつながるのかをおさえながら考えていきましよう。

《1》の直前には「(警察は)自分たちの役割として動いたと思います」と書かれています。これに対して直後に「警察官は、野生動物の勉強はしていません」という内容が続いています。《1》の六行後から始まる段落に書かれているように、筆者は野生動物に対応するべきなのは、野生動物の知識を持った公的な組織に属する人だという意見を持っています。したがって、ここには逆接のイ「しかし」が入ります。

《2》の直前には、クマによる被害について「場所も状況もさまざまで、その背景も複雑です」と書かれています。これに対して直後には「単純に一般化するのは危険」という内容が続いています。「背景が複雑であること」が「単純な一般化は危険である」という結論の根拠となっていることから、ア「ですから」が入ります。

《3》の直前には、里山に人がいなくなったことで野生動物が農地に侵入しやすくなったこと、特にサルなどは大胆に侵入すること、が書かれています。これに対して直後には農作物やカキの実、ミカン類などの取り残しが多くなり、これが野生動物にとって格好の食べ物になるということが書かれています。どちらも野生動物が里山に出没しやすくなった理由ですから、並列のエ「また」が入ります。

問四

**B1** 具体化 比較

——線③以降の内容を読み、筆者がどのような反応を見せているかをおさえて選択肢と照らし合わせましょう。——線③と同じ段落で、筆者はシカを助けたいといううったえについては「自然な心情」としてある程度理解を示しています。ところが、実際東京都でも200頭、埼玉県では2000頭ものシカが毎年殺処分されていることを指摘し、ニュースで報じたシカだけを「助けて」というのは不合理だと述べています。これはイの内容と重なります。また、——線③の十一行後から始まる段落では、シカを助けたとして、その後どうやって飼育するのかが述べられています。シカを助けてとうったえる多くの人は動物園などに引き取られることを想定しています。しかし、野生動物がおりの中で安心して暮らせるのかどうか、また事例が増えてきたときに常に動物園が引き取れるのか、ということについて筆者は疑問を投げかけています。これはエの内容と重なります。以上のことから、イとエが正解となります。ア「それに反対するのはおかしい」、ウ「分けて議論するべきだ」、オ「助けてと主張する人たちも野生動物の保護に関して負担をするべきだ」がそれぞれ誤っています。

問五

**A2** 知識 関係づけ

「件」という字をふくみ「物事がうまく解決する」という条件を合わせると、「一件落着(いっけんらくちやく)」という四字熟語があてはまります。四字熟語でも、使われている漢字と熟語全体の意味の関係をとらえ、使える場面と合わせて覚えておくようにするとよいでしょう。

問六

**B1** 具体化 関係づけ

——線⑤の直前の「それは大きな思い違いで」のさらに前を読むと、筆者は「童話などを通じてクマはお人好しでおりた動物だという印象を持ちがち」であると指摘しています。ここでは、実際のクマはそんなイメージとはかけ離れたどう猛な面を持つ肉食の動物なのだ、ということ強調しようとしています。クマのどう猛な面を指摘した部分を探すと、——線⑤の六行前に「クマは人身被害を起こすという点でやつかいな存在といえます」という表現が見つかります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七

**B1** 具体化 比較

——線⑥をふくむ一文を全体でとらえると、「しかし戦後しばらく、そういう話は聞いたことがありません」となり、さらに次の文には「それが過去30年ほどで急に増えたのはどういふわけでしょう」と書かれています。戦後しばらく起こっていないことで、過去30年ほどで急に増えたこと、が「そういう話」の正体です。次の段落を確認すると、戦後に落葉広葉樹林を伐採して針葉樹人工林に変えたことをきっかけとしてクマの食料事情が劣化し、ある山が凶作になった場合、隣の山でも食料が手に入らず、結果としてクマが食べ物を求めて里山に降りてくるほかなくなつた、という話が書かれています。以上のことから、エが正解となります。ア・イ・ウはどれも、戦後しばらく起こらなかつたこととしてふさわしくありません。

問八

**B1** 関係づけ

山の中でばったりクマと出会ったとき、お互い（＝人間とクマ）が⑦になり、クマが人間を攻撃する可能性が出てくる、ということが書かれています。野生動物が普段の生活圏から出て人間と出会う話は、ここ以外では「イ」直後に書かれています。自動車のライトやバイクが近づくことによつてシカが「パニック」になり、林から飛び出してさらに市街地の方へ逃げてしまうことがある、という内容です。山の中で人間とばったり出会ったクマも、「パニック」になって人間を攻撃してしまうことがあるのです。

問九

**B1** 具体化

——線⑧の直前にある「このこと」は、「クマの里山への出沒に伴う人身事故の問題と都市へのシカの出沒の問題が、人と野生動物のむずかしい問題の増加という点で共通している」という内容を指しています。これと「根のところまでつながった」「日本社会の大きな変化」を探しましょう。——線⑥から⑦の間にクマの里山への出沒の背景が様々な角度から説明されています。このうち、「日本社会の大きな変化」と言えるものは——線⑥の十行後に語られている「日本中の山村の人口が少なくなり、過疎化と高齢化が急速に進んだこと」でしょう。字数条件と合わせて、「過疎化と高齢化が急速に進んだこと」が答えとなります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十

**B1** 関係づけ 比較

ぬけている文をもとの場所に戻す問題です。戻す場所を考えるヒントはぬけている文の中にしかありません。まずは指示語や接続語、キーワードに注目しながら、ぬけている文の前後にどのような内容があるはずかを検討しましょう。また、必ず実際に文を戻して読み直し、内容的にふさわしいかどうかを確認しておきましょう。

「そうなる」とシカにとつては見たことのない家ばかりの空間になり」に注目すると、この文が戻る部分の直前には、シカが見たことのない家ばかりの空間に移動してしまう原因が書かれていることがわかります。「ウ」の直前にある「次の車が来たら、驚いてさらに市街地の方に逃げるはずです」が「そうなる」との内容としてふさわしい内容です。

問十一

**B2** 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文のどの部分をもとに作られた選択肢かを考え、実際に本文に戻つて照らし合わせ、正誤を判断しましょう。

正解のEは、本文の最後二段落の内容と合致しています。A「人間の社会に入つて来られない仕組みを作る必要がある」、「イ」都市部の市街地に姿を見せることが多い、「ウ」クマの食べ物はドングリから多肉質の果実へと変化していった」がそれぞれ誤っています。

3

**A1** 知識

①～⑤の語について、類義語を語群から選んで漢字に書き直す問題です。使われている漢字ごとの意味と熟語全体の意

味、どのような場面で使われることの多い言葉なのかということについて確認しておきましょう。

4

A1 知識

①～⑤を数えるときに使う単位を答える問題です。たいていのは「個」を使えば数えることができますが、それぞれの言葉と結びついた数え方（助数詞と言います）も使えるようにしておきましょう。